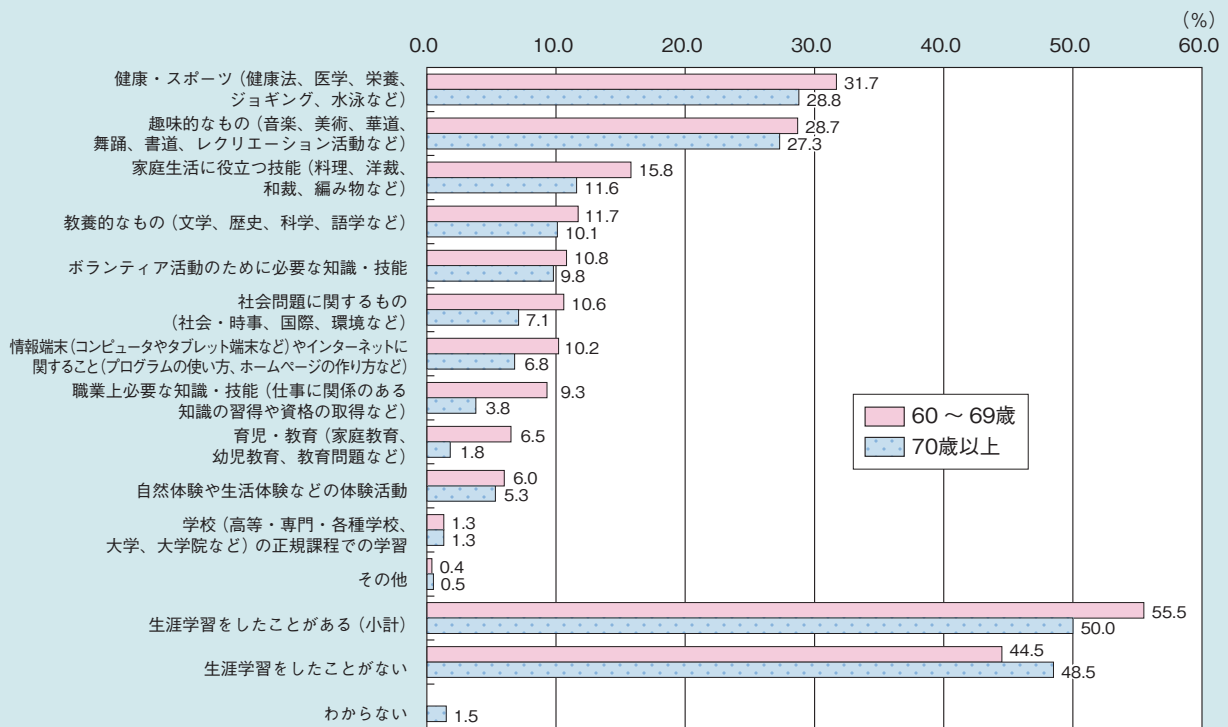


図1-2-26 高齢者が行っている生涯学習（複数回答）

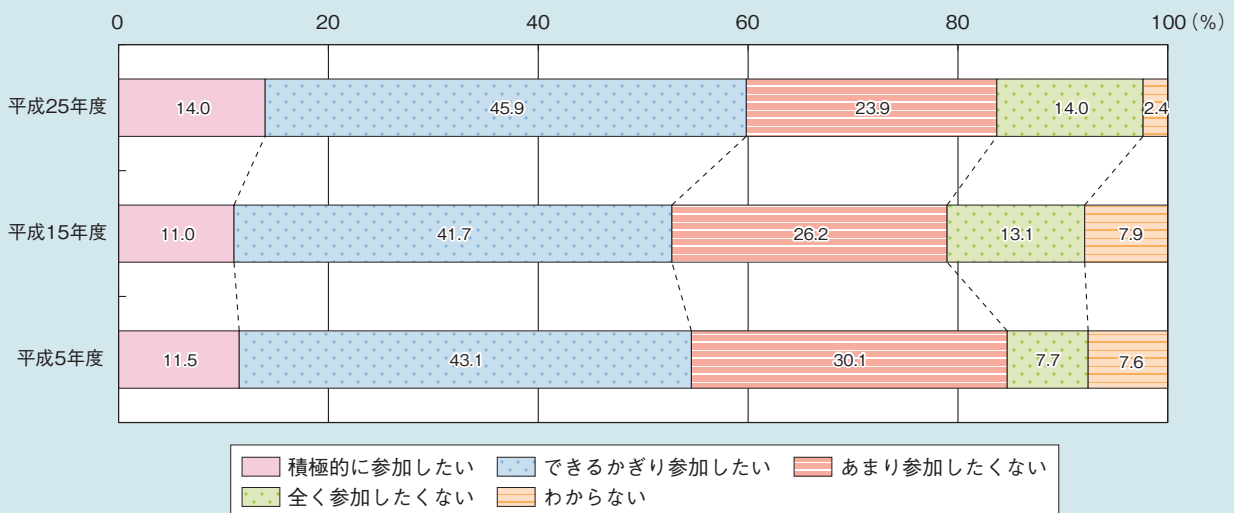


資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成24年）  
 （注）調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者だが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

○約6割の高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えている。

・高齢者の若い世代との交流の機会への参加意向についてみると、「積極的に参加したい」「できるかぎり参加したい」と回答した人の合計は平成25（2013）年度で59.9%となっており、10年前に比べると7.2ポイント増加している（図1-2-27）。

図1-2-27 若い世代との交流の機会の参加意向



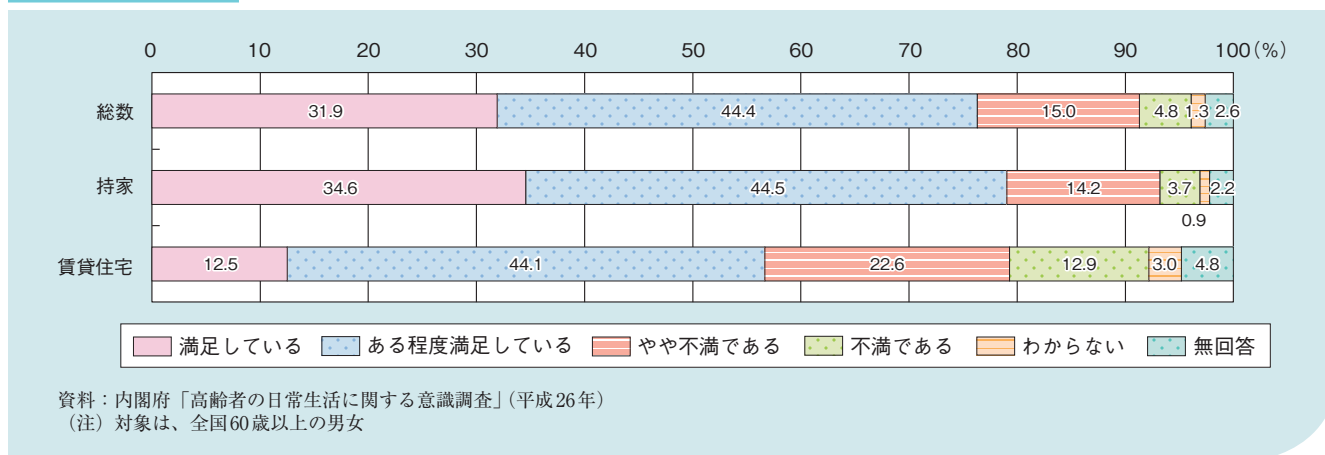
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）  
 （注）調査対象は、全国の60歳以上の男女

## 6 高齢者の生活環境

### ○高齢者の8割は現在の住居に満足している

・60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で76.3%、持家で79.1%、賃貸住宅で56.6%となっている（図1-2-28）。

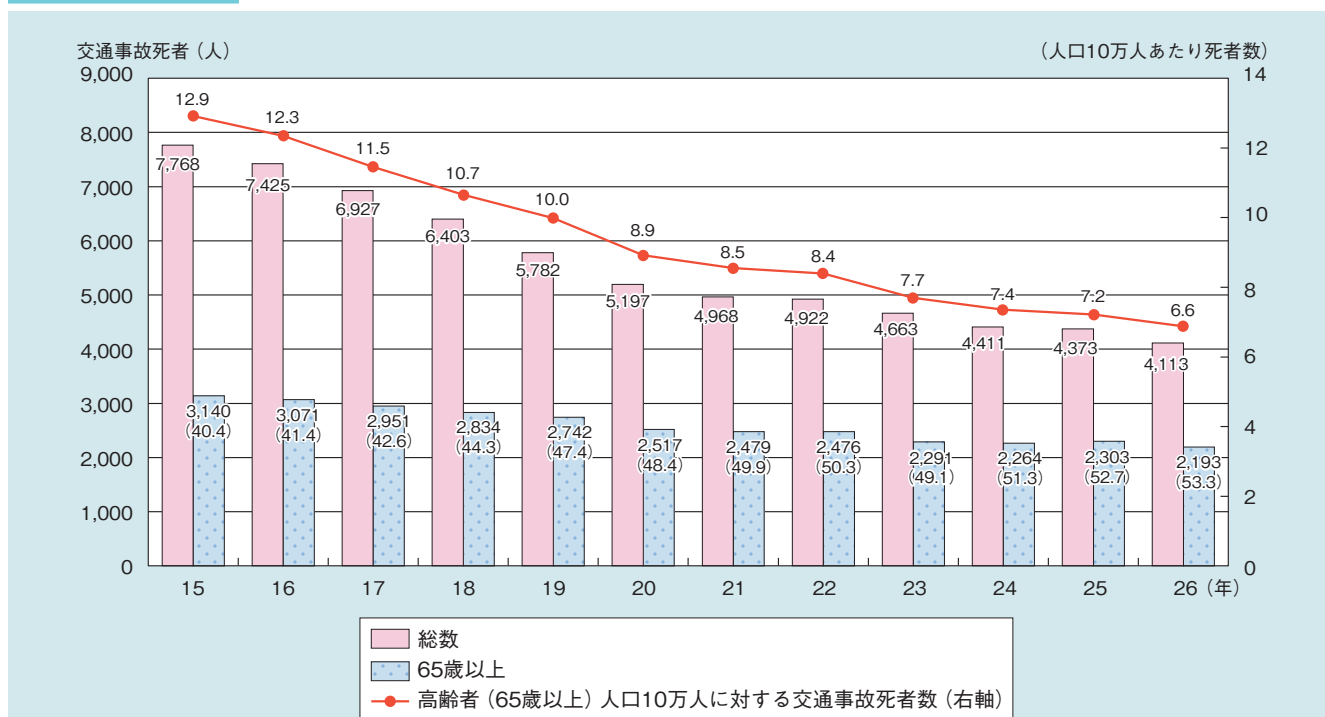
図1-2-28 現在の住居に関する満足度



### ○高齢者の交通事故死者数は減少しつつあるが、交通事故死者数全体に占める割合は過去最高

・65歳以上の高齢者の交通事故死者数は、平成26（2014）年は2,193人で前年より減少に転じたが、交通事故死者数全体に占める割合は53.3%と過去最高となった（図1-2-29）。

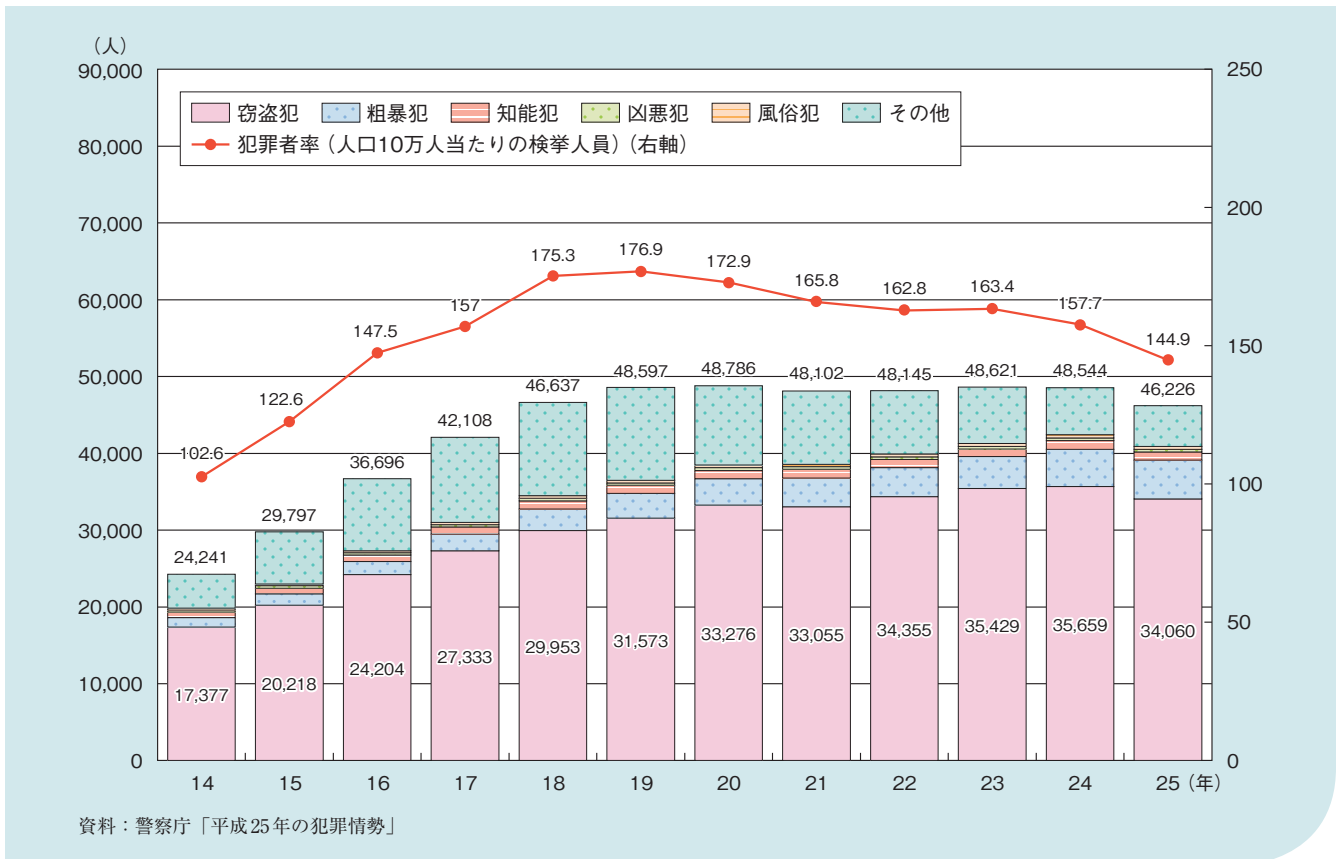
図1-2-29 年齢層別交通事故死者数の推移



○高齢者の犯罪者率は減少傾向、被害に遭う割合は増加傾向

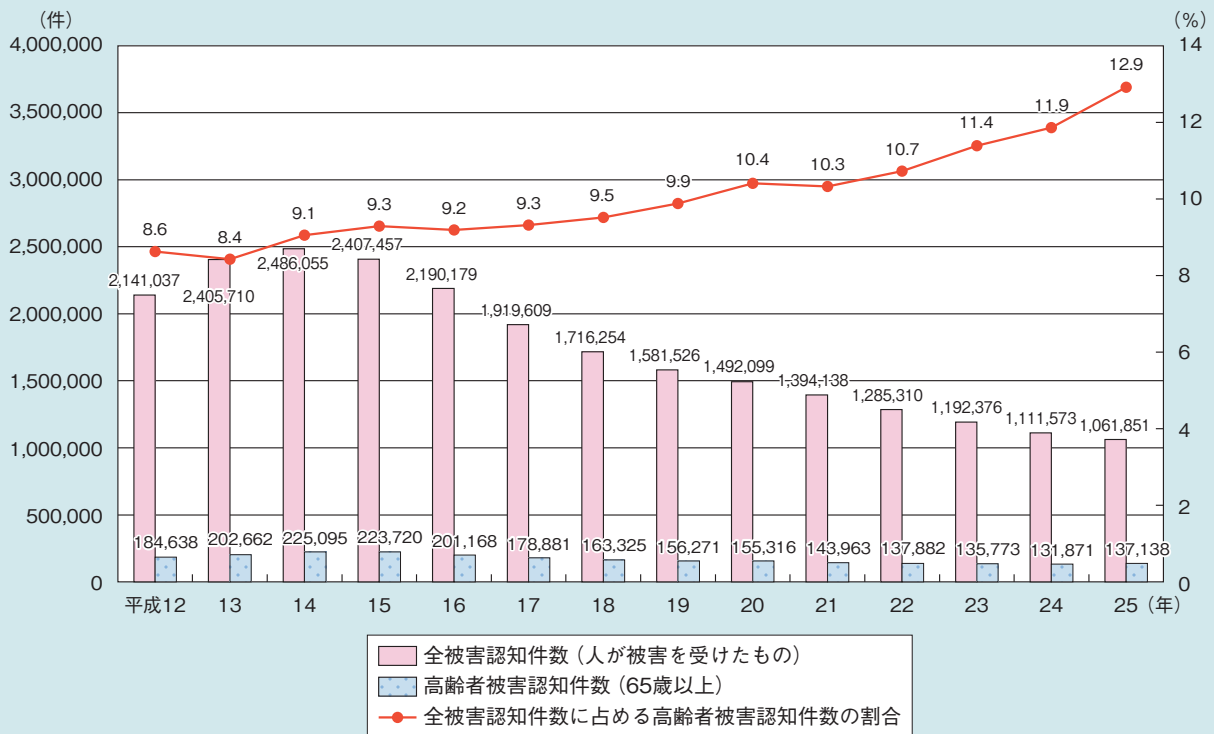
- ・平成25（2013）年の65歳以上の高齢者の刑法犯の検挙人員は、15（2003）年と比較すると、検挙人員では約1.5倍、犯罪者率では約1.2倍であるが、犯罪者率は近年減少傾向となっている（図1-2-30）。

図1-2-30 高齢者による犯罪（高齢者の包括罪種別検挙人員と犯罪者率）



- ・犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数で見ると、平成14（2002）年にピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は、25（2013）年は12.9%と、増加傾向にある（図1-2-31）。

図1-2-31 高齢者の刑法犯被害認知件数



資料：警察庁の統計より内閣府作成。平成20年から24年の数値は、26年8月1日現在の統計等を基に作成。

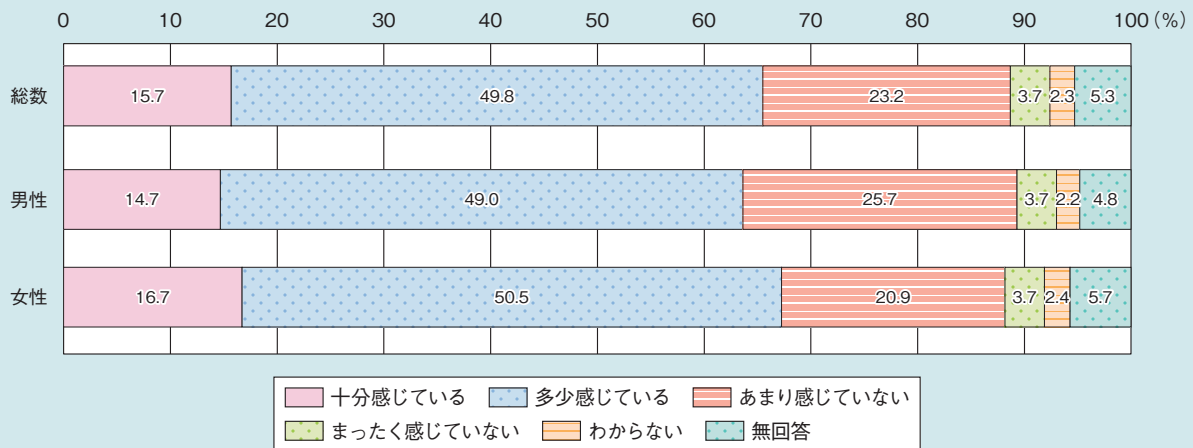
### ○生きがいを感じている人は約7割

・60歳以上の高齢者が生きがいをどの程度感じているかについてみると「十分に感じている」と「多少感じている」人の合計は約7割である。(図1-2-32)

### ○毎日の生活を充実させて楽しむことに力を入れたい人が多い

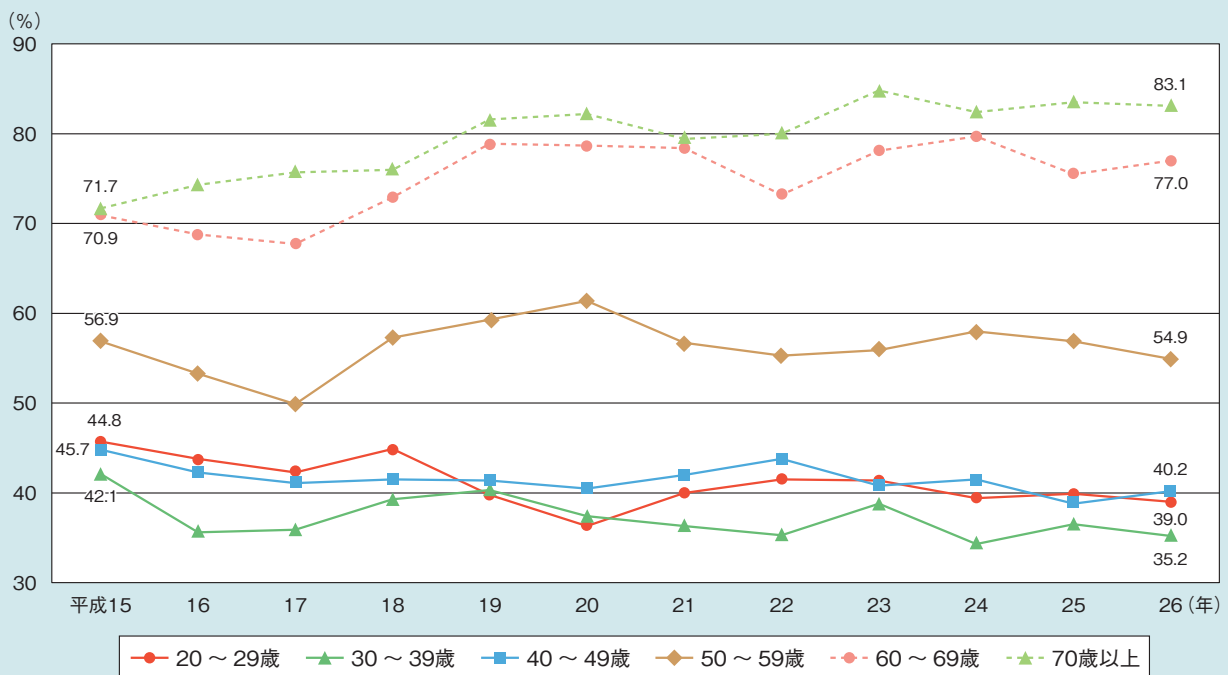
今後の生活で「貯蓄や投資など将来に備える」ことよりも「毎日の生活を充実させて楽しむ」ことに力を入れたい人の割合は、60～69歳は77.0%、70歳以上は83.1%であり、50～59歳では約5割、49歳以下の各層では4割前後であるのに対して、60歳以上の各層の割合は高い。また、平成15(2003)年と比べると、約7割から約8割に増加している(図1-2-33)。

図1-2-32 生きがいの程度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」(平成26年)  
 (注)対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-33 生活を充実させて楽しむことを重視する人の割合



資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」(平成26年)

○孤立死と考えられる事例が多数発生している

- ・ 誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるような「孤立死（孤独死）」の事例が報道されているが、死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成25（2013）年に2,869人となっている（図1-2-34）。
- ・ 独立行政法人都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約75万戸において、単身の居住者で死亡か